

あとがき

本書は、福祉保健行政上の大きな社会問題である孤独死の東京都特別区内での実態について明らかにした、初めての報告書です。本報告書は、前記の共同研究者や研究協力者の他、多くの監察医、監察医補佐、検査技師、事務室職員の協力も得られて完成することができました。関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

孤独死の調査では、その定義が研究毎にバラバラであったり、孤独死の何が問題であるのかが曖昧であったりと、調査を進める上で大変な困難がありました。そこで、本調査では、単身者の自宅死亡という客観的な属性のみから、孤独死の定義を構築し、その孤独死率が一般集団の死亡率と違いがないならば、孤独死に福祉保健行政上の問題はないとする前提を採用しております。単身世帯集団と複数世帯集団も、疫学的に同じ死因構造であるならば、この孤独死を特別視する必要はないからです。

しかし、本報告書を見るとおり、単身世帯者の自宅死亡は高い発生率を認めています。当然、複数世帯者では、病院へ搬送される機会は単身者より高いでしょうから、本報告書のみで単身世帯集団と複数世帯集団の単純な比較は不可能です。それでも、孤独死率では地域格差が認められたり、中年男性でも高い発生率が観察されるなど、大変興味深い結果が得られています。これらについては、今後分析が進められる予定です。

ところで、本調査における孤独死の統計は、疫学の先生からみると稚拙なところも散見されるかもしれません。学術的により高度な議論が可能であれば、ご指導頂ければ幸いです。なお、本書の内容につきましては、研究代表者である金涌が責任を負っています。

監察医は一例一例のご遺体と丁寧かつ真摯に向き合い、検案・解剖を行っています。その上で、本調査のように症例をとりまとめ、丁寧に集計・分析することで、法医学のデータを行政施策に資するようになることも可能になるのです。孤独死の調査を通じて、法医学と監察医業務の社会的な応用性の幅について、多くの都・区民の方に再認識して頂ければ幸いです。

研究代表者
東京都監察医務院非常勤監察医
医師 金涌 佳雅